石巻クラブ（JARL 登録クラブ 06-1-01）の掲載記事 河北新報社　2014 年 8 月 8 日・13 日

みやぎ 総合

災害時アマ無線活用を

震災で活躍 石巻のクラブ提案

通信網遮断でも交信可、持ち運びも手軽

いのちと地域を守る

石巻市の「石巻アマチュア無線クラブ」が、災害時の通信手段としてアマチュア無線の活用を提案している。東日本大震災では携帯電話などが通じない中、被災地の情報を発信したり、地元コミュニティーFMの放送に協力したりと威力を発揮した。災害時もアマチュア局同士は交信可能で、持ち運びも容易といった利点があるという。

クラブのメンバーは現在15人。今月2、3の両日は全国の愛好家によるコンテストに出場し、市内の高台に無線機を持ち寄って交信した。

メンバーの一人、宮崎裕史さん(45)は震災直後、クラブと災害協定を結んでいたコミュニティーFM局「ラジオ石巻」が停電で放送を中断したと知った。オートバイで非常用発電機に必要なガソリンを調達して運び、放送再開を後押しした。

オートバイで市内を回りながら冠水やがれきで通れない道路の状況を無線で連絡したり、避難者の安否情報を集めたりして、ラジオで伝えてもらった。「多くの人が情報を必要としていた。無線で何かできないかと思った」と振り返る。

鈴木政男さん(67)は無線で、被害状況を各地の仲間に発信。会長の及川匡さん(54)は自宅に置いていたメンバーの無線機が家ごと流されたが、仙台市から非常用無線機を運んできた。

宮崎さんと及川さんは昨年2月、アマチュア無線で災害復旧に貢献したとして、日本アマチュア無線連盟から表彰を受けた。

宮崎さんは「アマチュア無線はシステムが簡単で持ち運びできる。通常の通信網が遮断されても回復するまでの情報発信に使える」と有効活用策を模索する。及川さんも「無線機はメンバーの家で分散保管するなどし、災害時に役立てるように準備したい」と話す。

コンテストで交信する宮崎さん（右）ら石巻アマチュア無線クラブのメンバー

鈴木政男さん(67)＝石巻市大手町・無職

無線機は災害時有効

石巻市の愛好家でつくる「石巻アマチュア無線クラブ」に入っています。普段は飲み会や懇親会で集まることの方が多いクラブですが、全国の仲間同士で交信するコンテストには泊まりがけで参加します。

震災で自宅は無事でした。クラブのメンバーも全員助かりましたが、家を流された人もいます。メンバーの多くが無線機を置いていた会長の自宅が津波で被災したため、無線機まで失ってしまいました。

震災直後は使用できた無線機で、必死に石巻の被災状況を他の地域に発信したり、仲間と連絡を取り合ったりしました。

無線機は災害時も交信可能で、持ち運びも簡単。震災前から、災害に備えておこうとメンバーで話はしていました。震災の経験を踏まえ、無線機の分散保管などをしておかなければいけないと考えています。

共に歩もう